

2023年3月期第2四半期 決算説明資料

Fiscal Year Ending March, 2023
2Q Financial Results

2022年11月7日
株式会社エフテック
証券コード:7212



「エフテック」で検索

<https://www.ftech.co.jp>

1

決算概要

Financial Summary

2

業績予想

Earnings Forecast

3

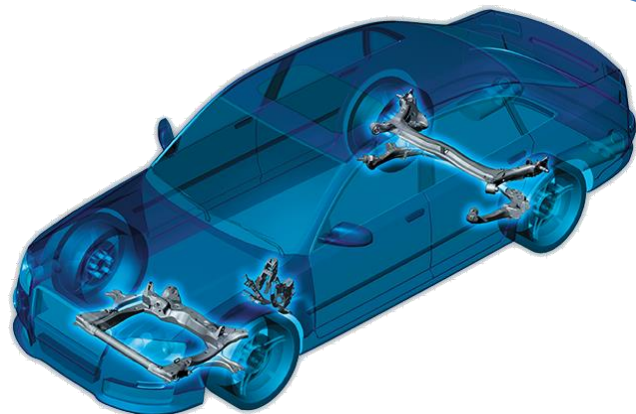
経営戦略

Management Strategy

4

トピックス

Topics



1

決算概要

Financial Summary

2

業績予想

Earnings Forecast

3

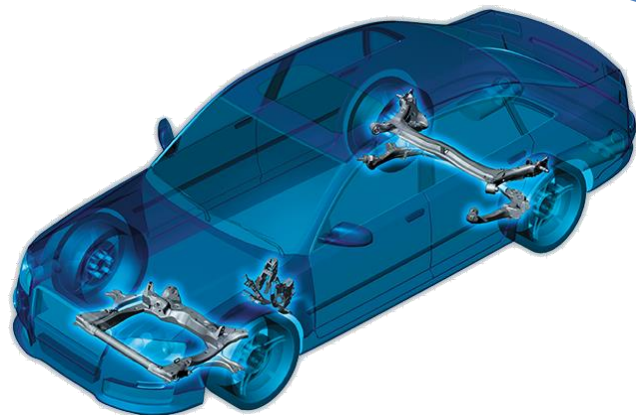
経営戦略

Management Strategy

4

トピックス

Topics



連結決算概要(前年同期比)

(単位:百万円)

	2022年3月期 2Q実績		2023年3月期 2Q実績		増減	
売上高	89,049	100.0%	121,260	100.0%	32,211	36.2%
営業利益	▲1,424	▲1.6%	▲1,085	▲0.9%	338	-
経常利益	▲1,627	▲1.8%	229	0.2%	1,856	-
親会社株主に帰属する当期 純利益	▲2,340	▲2.6%	661	0.5%	3,002	-
1株利益(円)	▲125.94	-	35.61	-	161.56	-

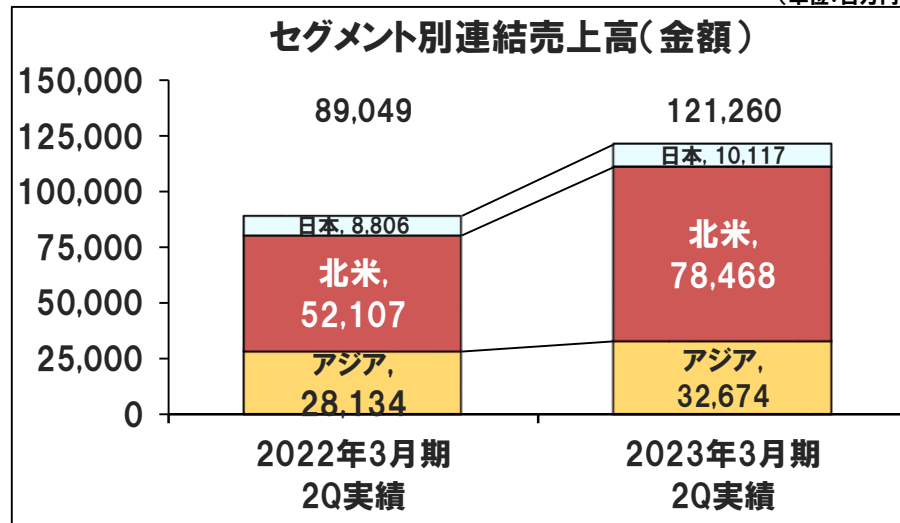
為替

	2022年3月期	2023年3月期	増減
1US\$	110.10円	135.30円	25.20円
1CAN\$	88.59円	104.06円	15.47円
1人民元	16.76円	19.13円	2.37円

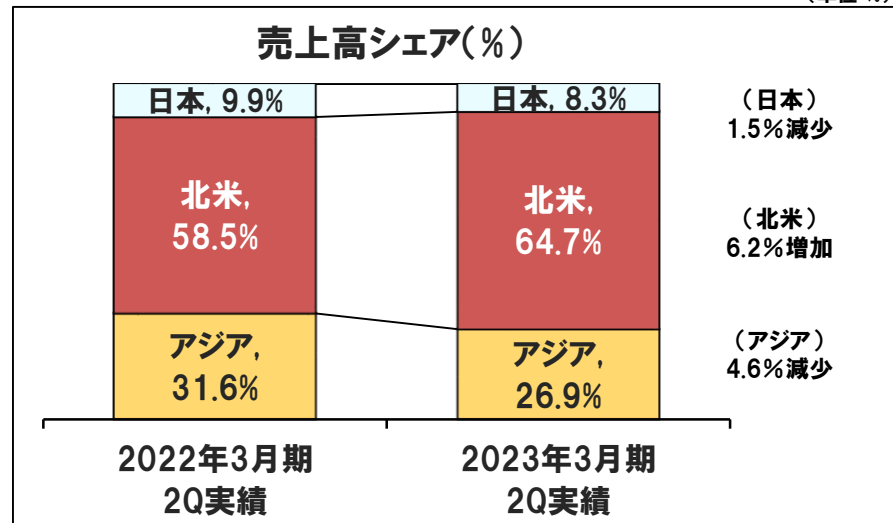
経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益で黒字化

連結売上高(前年同期比)

(単位:百万円)



(単位:%)



連結売上高増減

	'22年3月期	'23年3月期	増減	増減率	為替影響	実質増減	増減率
日本	8,806	10,117	1,310	14.9%	-	1,310	14.9%
北米	52,107	78,468	26,360	50.6%	12,665	13,695	26.3%
アジア	28,134	32,674	4,539	16.1%	3,903	637	2.3%
連結	89,049	121,260	32,211	36.2%	16,568	15,643	17.6%

半導体不足による影響があるものの、新規受注の影響により北米生産が増加

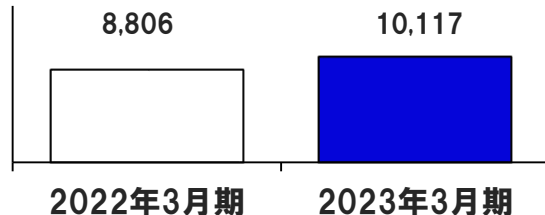
セグメント別営業利益(前年同期比)

(単位:百万円)

	金額			
	2022年 3月期 2Q実績	2023年 3月期 2Q実績	増減	増減率
日本	▲152	182	334	—
北米	▲2,148	▲2,205	▲56	—
アジア	1,020	710	▲310	▲30.4%
合計	▲1,280	▲1,313	▲32	—
調整	▲143	227	371	—
連結	▲1,424	▲1,085	338	—

セグメント別連結業績(日本)

売上高

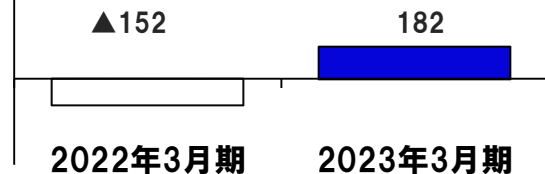


増減額	1,310
増減率	14.9%
為替影響	—
実質増減	1,310
増減率	14.9%

	増減理由	
1	TOYOTA新規受注及び材料高騰による売価上昇	1,060
2	商品売上増加(Gr向け金型設備売上)	1,334
3	技術収入売上増加(ロイヤリティー、開発費、他)	571
4	国内子会社売上増加	136
5	内部売上減少	▲1,791
	合計	1,310

営業利益

(単位:百万円)

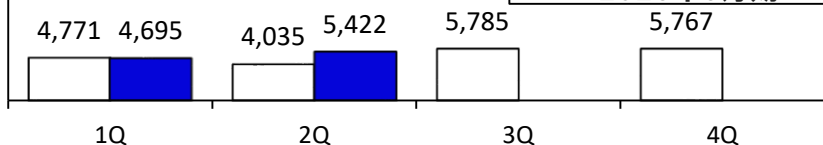


増減額	334
増減率	—
為替影響	—
実質増減	334
増減率	—

	増減理由	
1	新規受注で増益もHM狭山閉鎖及び物価高騰による減益	▲39
2	商品売上増加による増益	367
3	技術収入売上増加による増益	571
4	国内子会社減益	▲156
5	Gr向け売上の減少による減益	▲409
	合計	334

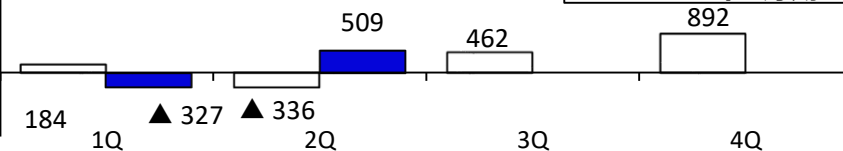
四半期推移

□2022年3月期
■2023年3月期



四半期推移

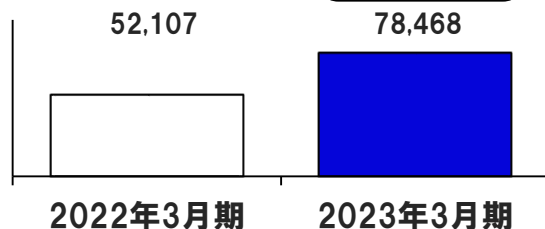
□2022年3月期
■2023年3月期



製品売上の減少を商品売上・技術収入でカバーし、増収増益

セグメント別連結業績(北米)

売上高

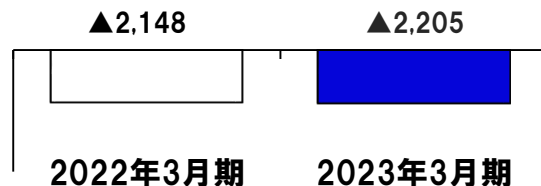


増減額	26,360
増減率	50.6%
為替影響	12,665
実質増減	13,695
増減率	26.3%

	増減理由	
1	製品売上増加(HM ▲2,343、他 9,625)	7,282
2	商品売上増加	2,984
3	材料高騰による売価上昇	3,429
4	為替換算影響	12,665
	合計	26,360

営業利益

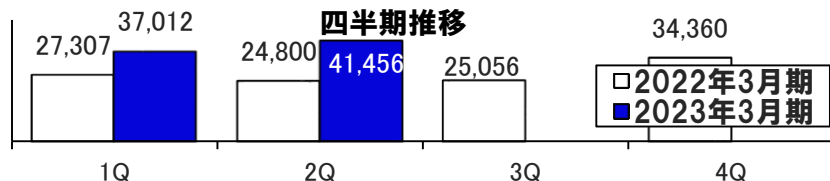
(単位:百万円)



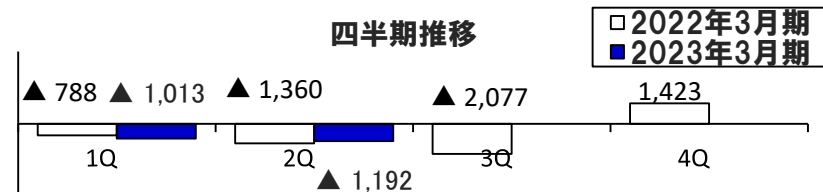
増減額	▲56
増減率	—
為替影響	▲410
実質増減	353
増減率	—

	増減理由	
1	製品売上増加による増益	971
2	商品売上増加による増益	850
3	物価高騰影響(輸送費、賃金、燃料)	▲617
4	政府補助金の減少、他	▲850
5	為替換算影響	▲410
	合計	▲56

四半期推移



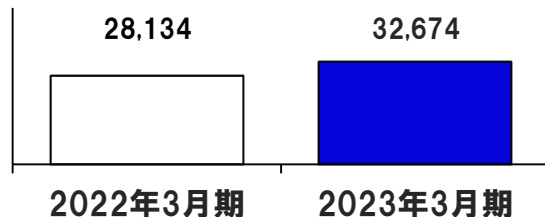
四半期推移



新規受注により増収となるが、物価高騰や一過性良化要素の解消もあり減益

セグメント別連結業績(アジア)

売上高

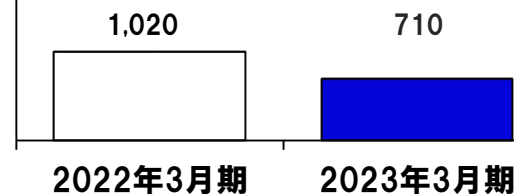


増減額	4,539
増減率	16.1%
為替影響	3,903
実質増減	637
増減率	2.3%

	増減理由	
1	(中国)製品売上(材料高騰 3,123、受注減少 ▲4,920)	▲1,797
2	(ア大)得意先の受注増加	656
3	(ア大) ISS子会社化に伴う売上増	1,777
4	為替換算影響	3,903
	合計	4,539

営業利益

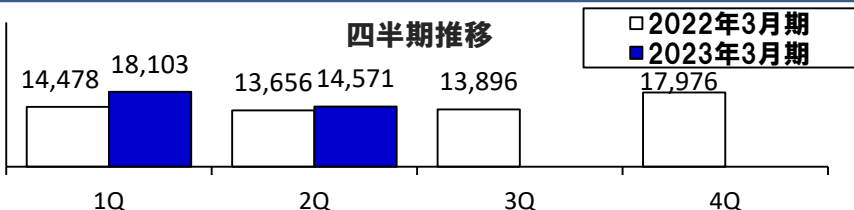
(単位:百万円)



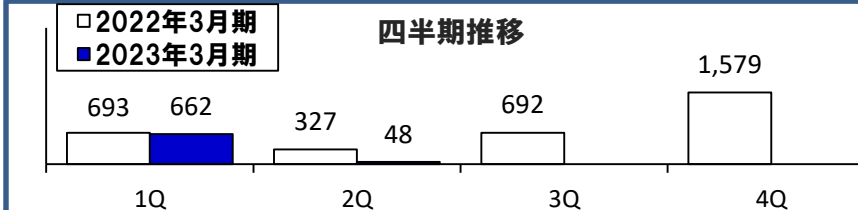
増減額	▲310
増減率	▲30.4%
為替影響	95
実質増減	▲405
増減率	▲39.7%

	増減理由	
1	(中国)製品売上減少による減益	▲779
2	(ア大)製品売上増加による増益	294
3	(ア大) ISS子会社化に伴う増益	80
4	為替換算影響	95
	合計	▲310

四半期推移

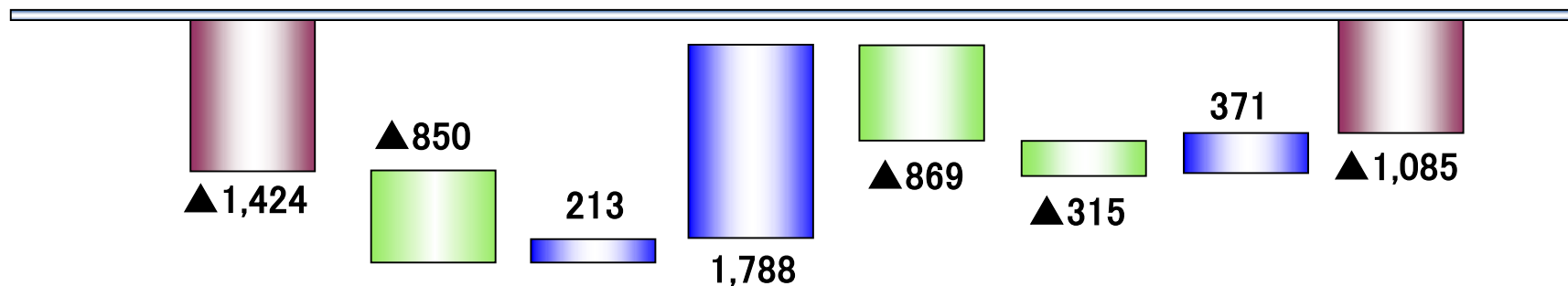


四半期推移



中国: 上海ロックダウン影響により減収減益、ア大: 生産回復、ISS子会社化により増収増益

セグメント別営業利益(2023年3月期第2四半期実績)



	2022年 3月期 2Q実績	コロナ 助成金等	製品売上 増減	商品・ 技術収入 売上増減	物価高騰 影響	為替影響	連結調整	2023年 3月期 2Q実績	増減
日本	▲152		▲352	938	▲252			182	334
北米	▲2,148	▲850	970	850	▲617	▲410		▲2,205	▲56
アジア	1,020		▲405			95		710	▲310
調整	▲143						371	227	371
連結	▲1,424	▲850	213	1,788	▲869	▲315	371	▲1,085	338

1

決算概要

Financial Summary

2

業績予想

Earnings Forecast

3

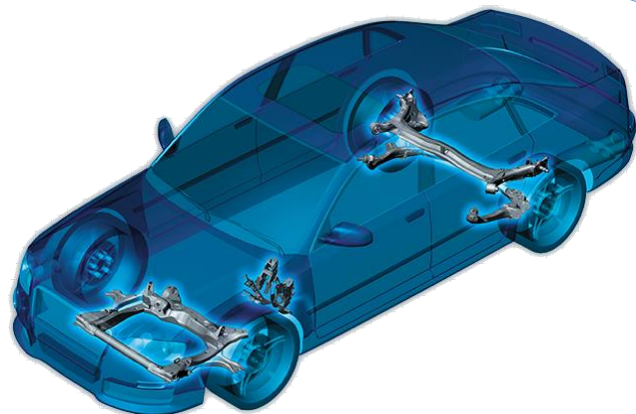
経営戦略

Management Strategy

4

トピックス

Topics



連結予算概要(前回予想比)

(単位:百万円)

	前回予想		今回予想		増減	
売上高	270,000	100.0%	270,000	100.0%	-	
営業利益	4,000	1.5%	2,000	0.7%	▲2,000	▲50.0%
経常利益	3,000	1.1%	2,400	0.9%	▲600	▲20.0%
親会社株主に帰属する当期純利益	1,000	0.4%	1,500	0.6%	500	50.0%
1株利益(円)	53.80	—	80.69	—	26.89	—

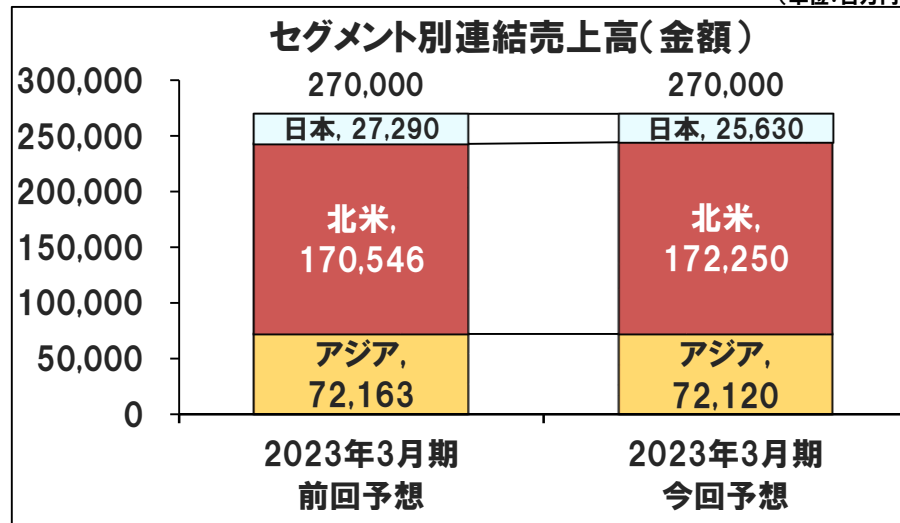
為替

	前回予想	今回予想	増減
1US\$	127.00円	136.25円	9.25円
1CAN\$	99.50円	105.26円	5.76円
1人民元	19.00円	19.61円	0.61円

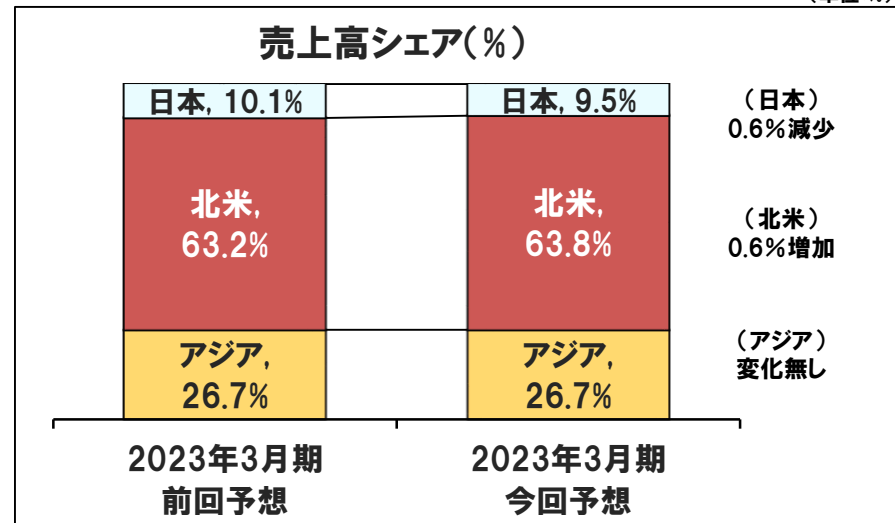
営業利益、経常利益は減益となるが、親会社株主に帰属する当期純利益は増益

連結売上高(前回予想比)

(単位:百万円)



(単位:%)



連結売上高増減

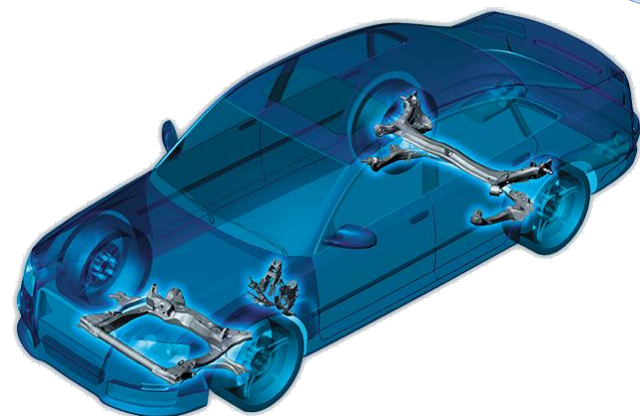
	前回予想	今回予想	増減	増減率	為替影響	実質増減	増減率
日本	27,290	25,630	▲1,660	▲6.1%	-	▲1,660	▲6.1%
北米	170,546	172,250	1,703	1.0%	10,097	▲8,393	▲4.9%
アジア	72,163	72,120	▲43	▲0.1%	2,330	▲2,374	▲3.3%
連結	270,000	270,000	-	-	12,427	▲12,427	▲4.6%

売上高は据え置きとなるものの、為替影響を除くと減収

セグメント別営業利益(前回予想比)

(単位:百万円)

	金額			
	前回予想	今回予想	増減	増減率
日本	777	752	▲25	▲3.2%
北米	1,672	▲1,595	▲3,267	▲195.4%
アジア	1,638	2,699	1,061	64.7%
合計	4,088	1,856	▲2,232	▲54.6%
調整	▲88	144	232	—
連結	4,000	2,000	▲2,000	▲50.0%



1

決算概要

Financial Summary

2

業績予想

Earnings Forecast

3

経営戦略

Management Strategy

4

トピックス

Topics

第14次中期経営計画

全社方針： 限界突破！世界中のお客様にこだわりのBest Oneを

66期 (FY2020)

67期 (FY2021)

68期 (FY2022)

Back to Basics
～こだわりを極め～

◇全拠点の
黒字化

◇シミュレーション
の進化

◇国内の再生

グループ効率の
最大化を図る

目標

【生産性】

・要員効率向上

【効率性】

・自動検査装置

【収益性】

・廃却仕損費削減

・FCF黒字化

Challenge for New
～新たな価値創造へ挑戦～

◇新たな柱となる
顧客を確立

◇新たな地域
への挑戦

◇新たなビジネス
の創出

Our Vision： 足廻り機能領域の専門メーカーとして世界No.1を目指す

第14次中期3ヵ年経営計画

		2020年度	2021年度	2022年度
14次中期 経営計画	売上高	2,160億円	2,220億円	2,150億円
	営業利益	50億円	70億円	75億円
	営業利益率	2.3%	3.2%	3.5%
実績および 22年度計画	売上高	1,836億円	1,918億円	2,700億円
	営業利益	30億円	11億円	20億円
	営業利益率	1.7%	0.6%	0.7%

**コロナ影響および半導体供給不足の影響に起因した
各自動車メーカーの大幅減産により中期経営計画は未達**

<Back to Basics ～こだわりを極め～>

- ◇ 全拠点の黒字化
- ◇ シミュレーションの進化
- ◇ 国内の再生

<Challenge for New ～新たな価値創造へ挑戦～>

- ◇ 新たな柱となる顧客を確立
- ◇ 新たな地域への挑戦
- ◇ 新たなビジネスの創出

	2Q営業利益水準(累計)	要因	下半期施策
日本	実績:2億円 計画比:▲4億円	- 得意先の生産減により付加価値減少 - 海外向け商品売上で利益に貢献 - 円安がロイヤリティ収入減をカバー	- 経費削減 →コロナ前対比▲4億円(通期) - 新機種の安定立ち上げによる付加価値向上 ＜将来収益向上に向け＞ - 新規ビジネス取組み継続 - 新機種獲得に向けた営業推進活性化
北米	実績:▲22億円 計画比:▲23億円	- 得意先の生産減により付加価値減少 - 各種改善策は途上 - 新機種投資、能力拡充投資による減価償却負担増加 - 各種コストアップ	＜製造経費等削減に向けた対応＞ - 製造体質改善及び内製化 - 在庫最適化、外部倉庫整理 - 検査工程の改善→自動化、要員削減 - 新機種の安定立ち上げ対応 ＜将来収益向上に向け＞ - 営業体制の整備
アジア	実績:7億円 計画比:+1億円	- 上海ロックダウンによる生産減により付加価値減少 - 各種コストアップ	- 生産効率改善による外注費、労務費削減 - 経費削減 - インド子会社の安定運営、新規取引拡大

半導体不足による生産減の継続

施策を完遂することで、全拠点黒字化への基盤を強化

アメリカ拠点の改善内容と効果見込み

※為替レート 1ドル135.3円で計算
(単位:百万円)

項目	詳細	対応	効果概算(2Q)
省人化	- 設備の自動化 - 間接要員削減 - 稼働率向上	- 組立、検査工程自動化 - 工場レイアウト最適化による要員削減 - 日本のエキスパート派遣(金型、溶接)	166
内製化	- 外作費用削減 - コストダウン交渉	- 外作プレス部品の内製 - 購入品のコストダウン交渉、手配先変更	0.1
経費削減	- 外部倉庫の削減 - 仕損費削減 - 経費削減	- 在庫最適化によるスペース抑制 - 日本から品質改善チーム派遣 - 生産設備の部品の長用化	56
その他	コストの売価反映	- 補修部品 - 材料価格の高騰分の反映	42

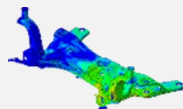
合計 264

**生産台数の減少で効果発現には至らず
台数正常化時の効果発揮に向け鋭意改善推進中**

当社の開発領域リソース

設計

最適化設計



OEMの要求に対し、最適な仕様での提案が可能

解析

製品を実車に搭載した際の性能影響の解析

- ・製品性能: 強度、耐久、剛性、ノイズ、バイブレーション、衝突、操安性能



一連の生産プロセスを想定した解析

- ・製造領域: プレス、溶接、塗装を考慮した設計が可能

試作/試験

- ・プロトタイプ製作
- ・要求性能評価
素材、強度、耐久、耐食性、サスペンション特性

クルマの動力源が変化しても、OEMの要求に柔軟、かつ高精度で対応できる開発体制

実機データの取りを密に行い、相関性が高いデータを落とし込む

製品開発

製造プロセス

蓄積したノウハウをシミュレーションへ落とし込み

シミュレーション上での完全な再現を目指す

“開発コストの削減と開発期間の短縮” “新機種安定立ち上げ”

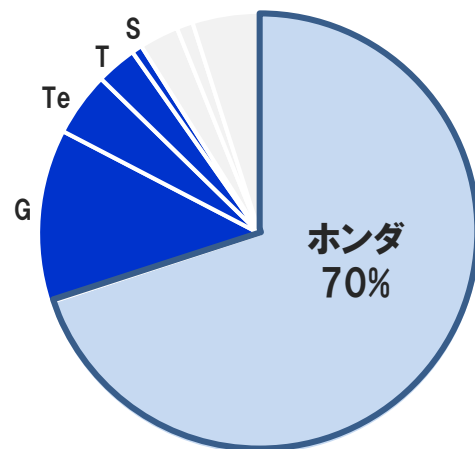
	2022年度 施策	2022年度 進捗状況
売上確保	- 新規顧客の量産安定立ち上げ - 新機種種量産段取りのタイミングに合わせた効率的設備供給	- トヨタ車の量産安定立ち上げを完了 →今期売上見込み:約20億円 - 新規受注車種の安定立ち上げに向け推進中 →2023年以降、売上見込み:約5億円/年
生産減への適応	更なるライン集約効果の発揮 →要員効率の更なる改善	要員効率の最適化に向け推進中 →自動化設備導入と現場導線の最適化により、工数の更なる削減を見込む
コスト削減	- スペースの有効活用実現 →外注の内製化・倉庫集約、社内間輸送削減 - 投資・経費の厳格管理	- ライン集約により創出したスペースに外注業務を取り込めるよう推進中 →今期中に対応完了予定 - 販管費 19年比5%削減見込み →来年以降も継続展開
間接部門の業務改革	業務集約とシステム化の対象 →範囲を拡大し、効率化を継続実施	間接業務のプロセス改善、ペーパーレス推進中

トップラインの維持及びトップラインに合わせたコスト構造の確立

得意先別グローバル売上高シェア

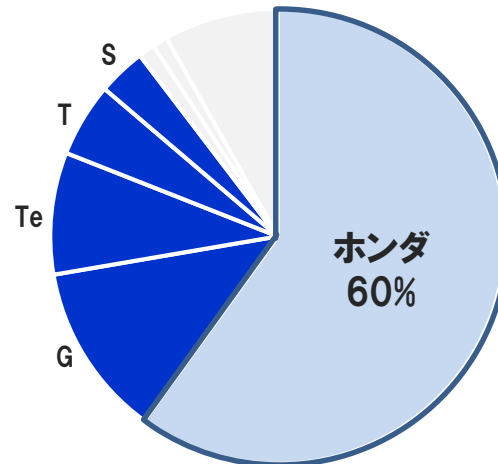
2019年

主要4社 21%



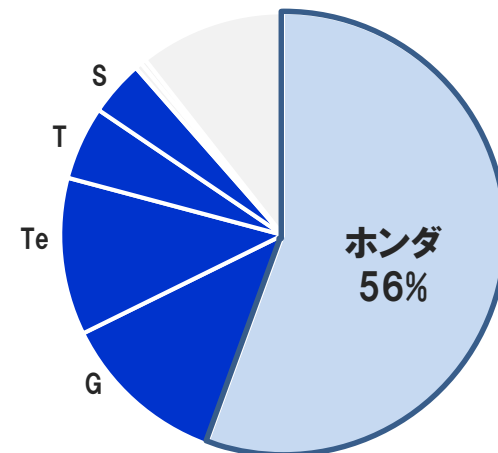
2022年 ※見込み

主要4社 30%



第15次中期初年度 ※計画

主要4社 33%



ホンダとのビジネスを軸に他社ビジネスも拡大

第15次中期以降も、既存得意先との更なるビジネス強化



F&P MFG DE MEXICO, S.A. DE C.V.



新規種量産および増産準備を開始
<H社>SUV系 約10万台/年
<G社>SUV系 約20万台増産
<米系EV>SUV系 約25万台/年



新規種量産による売上高見込み
2022年度:約63億円 2023年度以降:約190億円/年
※為替レート 1ドル135.3円で計算

能力拡充は計画通り進捗 グループ主要拠点として、大きく成長見込み

<インド市場> 北米、中国に続く第3の柱へ

インド

F.tech

中国

北米

ISS子会社化によるインパクト
売上高 +40億円
営業利益 +2億円
※11月7日現在の通期見込み

- ・VG社と合併企業を設立
- ・エキスパート2名駐在開始
- ・SMGにリアアクスルビーム供給開始

2020-2022

住友商事(株)より
ISSの事業承継
6月~エフテックグループ

2022

高効率、高品質の
シャシー製品を生産
⇒ SMGに供給
(40万台/年)

2023

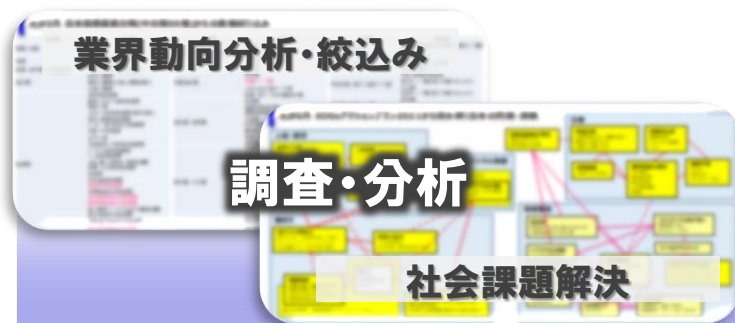
能力拡充完了
SMGへの供給
新規得意先開拓

2025

潜在成長力ある
インドへの挑戦

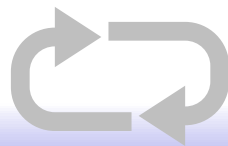
SMG: Suzuki Motor Gujarat ISS: India Steel Summit Private Limited

インド市場における自前拠点の確立 グループの製造ノウハウを移植し、新たな成長ステージへ



新たなビジネスの創出に向けて 様々なアイデアの洗い出し

- ・自転車部品関連
- ・医療器具関連
- ・IT関連
- ・アウトドア/レジャー用品関連
- ・環境関連
- ・人材/教育関連



電動モビリティ 南栗橋スマートヴィラにて初披露



他領域のビジネス化検討



多面的なアプローチを繰り返し、ビジネス化の可能性を模索

1

決算概要

Financial Summary

2

業績予想

Earnings Forecast

3

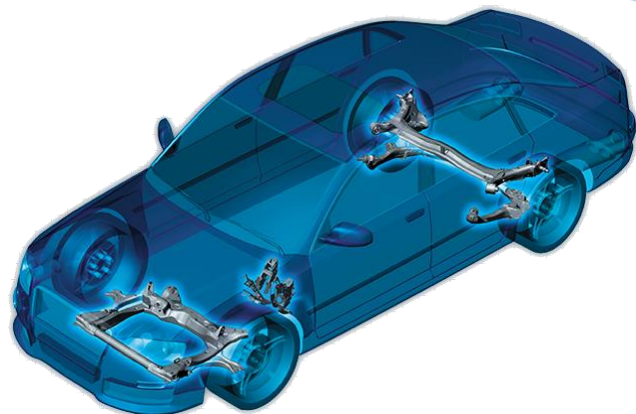
経営戦略

Management Strategy

4

トピックス

Topics



現在までの活動状況

◆CDP調査への回答
・2021年度B-評価

◆エネルギー使用状況
見える化

◆省エネルギー活動
・ISO50001を取得・運用
・エネルギーマネジメント
システムのグループ展開

2017年1月

Honda優良感謝賞(環境賞)
Hondaグリーン大会
グローバル大会、日本地域大会 優秀賞



平成28年度省エネ大賞
省エネ事例部門
省エネルギーセンター会長賞

新たな領域

2022年10月 CN推進CFT 創設

当社が課題と
捉えている項目
一例

- ・再生エネルギー/低CO2電力導入
- ・高効率設備/技術の導入
- ・生産性向上/製造プロセス見直し

課題解決に向け、
各領域からエキスパートを結集

経営企画、開発、調達、品質、設備、生産、管理領域

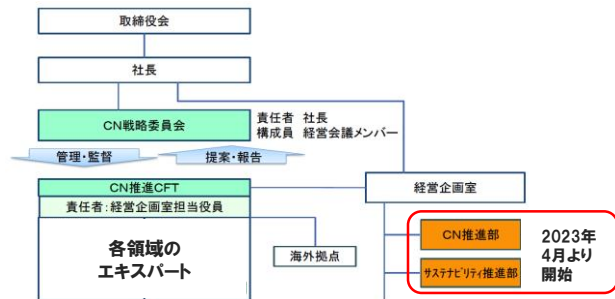
中長期的な施策の立案、推進

GOAL

カーボンニュートラル 実現

CN:カーボンニュートラル
CFT:クロスファンクショナルチーム

カーボンニュートラル推進体制

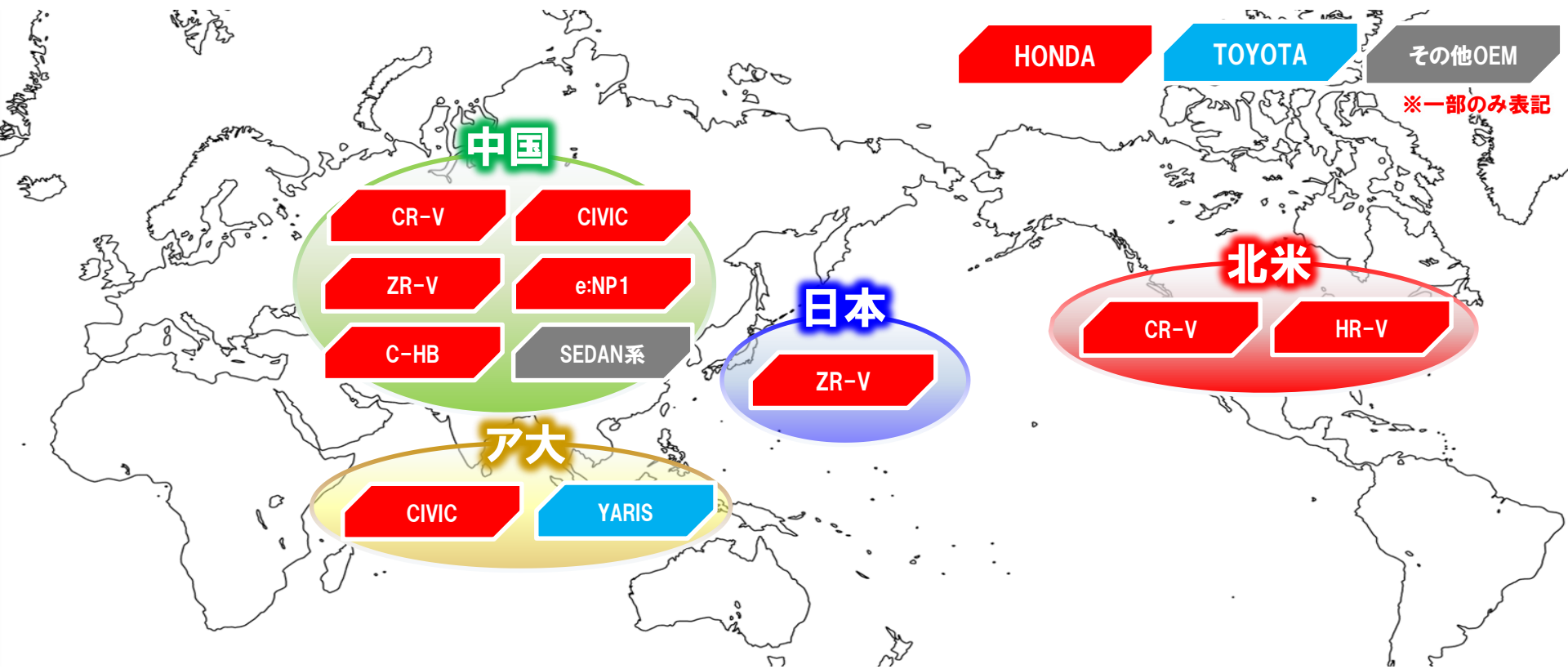


スケジュール(予定)

2022年10月	CN推進CFT創設
11月	ロードマップ策定
12月	推進体制、施策の グローバル展開
2023年 4月	本格始動

来年度から本格始動に向け、推進体制を構築

生産への取組み ～2022年度上半期(4月～9月)生産開始の車種～



多機種の生産・供給を開始。下期は14車種の生産開始を予定

フードバンクへの寄贈

フードバンク埼玉様へ、食料品3,600食、飲料水200ケースを寄贈させていただきました。



地域清掃活動

当社では、地域社会への貢献と、従業員のCSR意識向上を高めるため、定期的に敷地周辺の清掃活動行っております。

久喜事業所～ごみゼロ・クリーン活動～



近隣他社様と協力し、工業団地内の道路や備前堀川の清掃活動を行っています

亀山事業所～アダプトプログラム活動、クリーン活動～



亀山市保有の緑地帯をボランティアで管理し、積極的に清掃活動を行っています

芳賀テクニカルセンター～クリーン活動～



研究所の隣には大きな公園もあるため、定期的に清掃活動を行っています

様々な活動を通じ、社会・地域貢献に取り組む中

お客様と官公庁から高評価を獲得しました

日本	久喜	生産技術	◆ 2022年4月 文部科学大臣表彰 創意工夫功労者賞 「自動車部品向け超精密加工プレス金型の仕様改善」
	亀山	生産技術	◆ 2022年4月 文部科学大臣表彰 創意工夫功労者賞 「製品重量を利用した製品搬送の考案」
北米	FPMX (メキシコ)	品質	◆ 2022年7月 General Motors 「Supplier Quality Excellent Award 2021」
アジア	FPMI (フィリピン)	品質	◆ 2022年5月 Toyota Motor Philippines Corporation 「2021 SUPERIOR QUALITY PERFORMANCE AWARD」
		品質供給	◆ 2022年5月 Yamaha Motor Philippines Inc. 「2021 Supplier Award Best in Quality」 「2021 Supplier Award Best in Delivery」
	FMTL (タイ)	品質	◆ 2022年11月 Nissan Motor Thailand 「Regional Quality Award」
	ISS (インド)	品質	◆ 2022年7月 Denso Haryana Pvt. Ltd. 「The Certification of Appreciation – in the category of Quality for 2021-22」

👑 4年連続受賞



創意工夫功労者賞



令和4年度科学技術分野の文部科学大臣表彰
創意工夫功労者賞 表彰状等伝達式



品質優良賞



サプライヤー品質賞



サプライヤー品質・納入賞



品質賞

ご清聴ありがとうございました

Thank you for your attention!



本資料で記述している将来予測及び業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。

そのため、様々な要因の変化により実際の業績と記述としている将来見通しは、大きく異なる可能性があることを御承知おき下さい。

The future outlook and earnings forecasts in this document are made based on the information available at the moment, and they include potential risks and uncertainties.

As a result, please bear in mind that actual business performance may substantially differ from the stated future forecasts due to changes in various factors.

IR情報のお問い合わせ、取材申し込みは

For inquiries on IR information, please contact:

株式会社エフテック 管理本部 総務部/経理部

F-TECH INC. Management Planning Division General Affairs Department/Finance and Accounting Department

代表TEL

0480-85-5211

Mail

webmaster@ftech.co.jp

「エフテック」で検索
<https://www.ftech.co.jp>



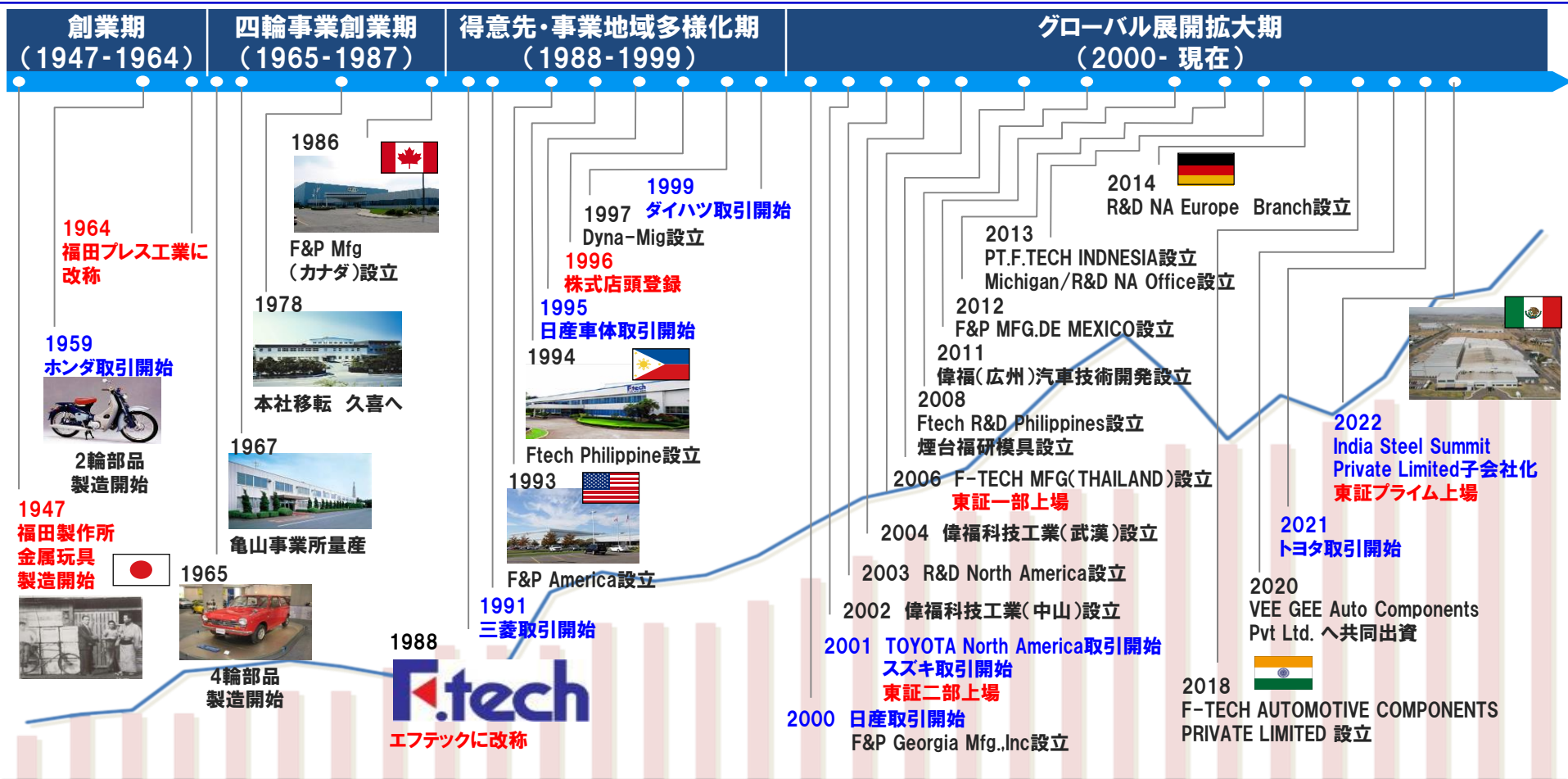
Appendix

会社名	株式会社エフテック
市場区分	東証プライム(7212)
資本金	67.9億円
代表者名	代表取締役社長 福田祐一
売上高(連結)	1,918億円(2022年3月期)
従業員数(連結)	9,150人(単体:927人) ※単体:国内エフテックのみ(子会社、海外駐在員含まず)
設立年月日	1947年7月1日
本社所在地	〒346-0194 埼玉県久喜市菖蒲町昭和沼19番地
主要取引先	本田技研工業株式会社、ゼネラルモーターズ社、 日産自動車株式会社、トヨタ自動車株式会社、etc.
主要製品	自動車向け足廻りサスペンションアーム、 サブフレーム、アクスルビーム、ペダルコントロール等



2022年3月末現在

Appendix ~沿革~

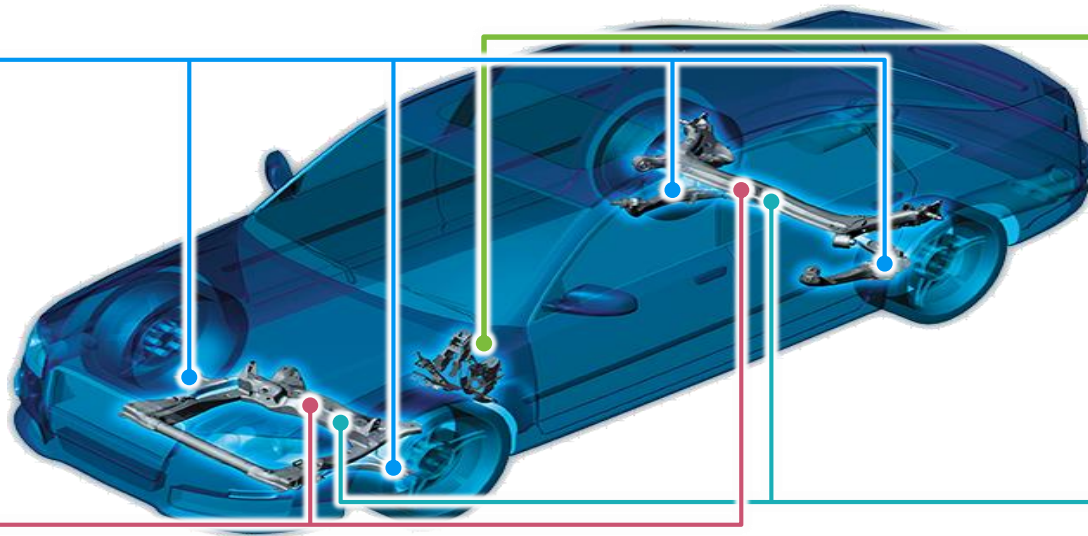




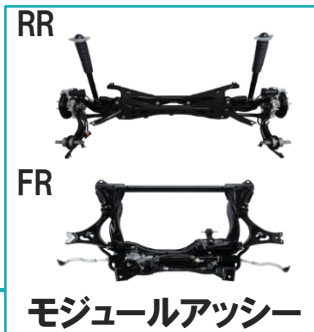
サスペンション
部品



マウント部品



コントロール部品



モジュールアッシー

当社の製品は、「走る」・「曲がる」・「止まる」の基本機能を司る、
重要保安部品であり、より高い操縦安定性や乗り心地、
衝突時の安全性を考慮した最適仕様を目指しています。

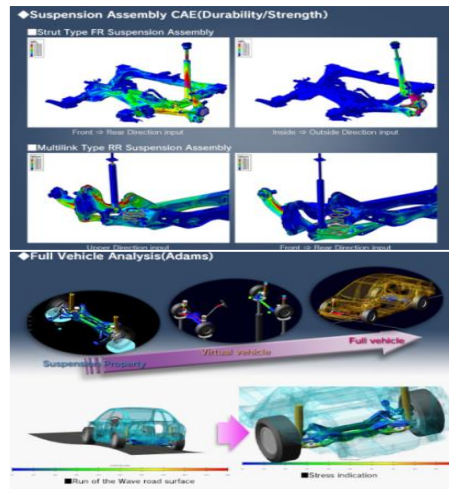
製品開発

塑性成形

接合

塗装

組立



製品の企画開発から量産まで、全工程を独自の一貫加工体制で対応、
圧倒的に競争力の高い製品をスピーディーに提供しています。

●【国内事業所】

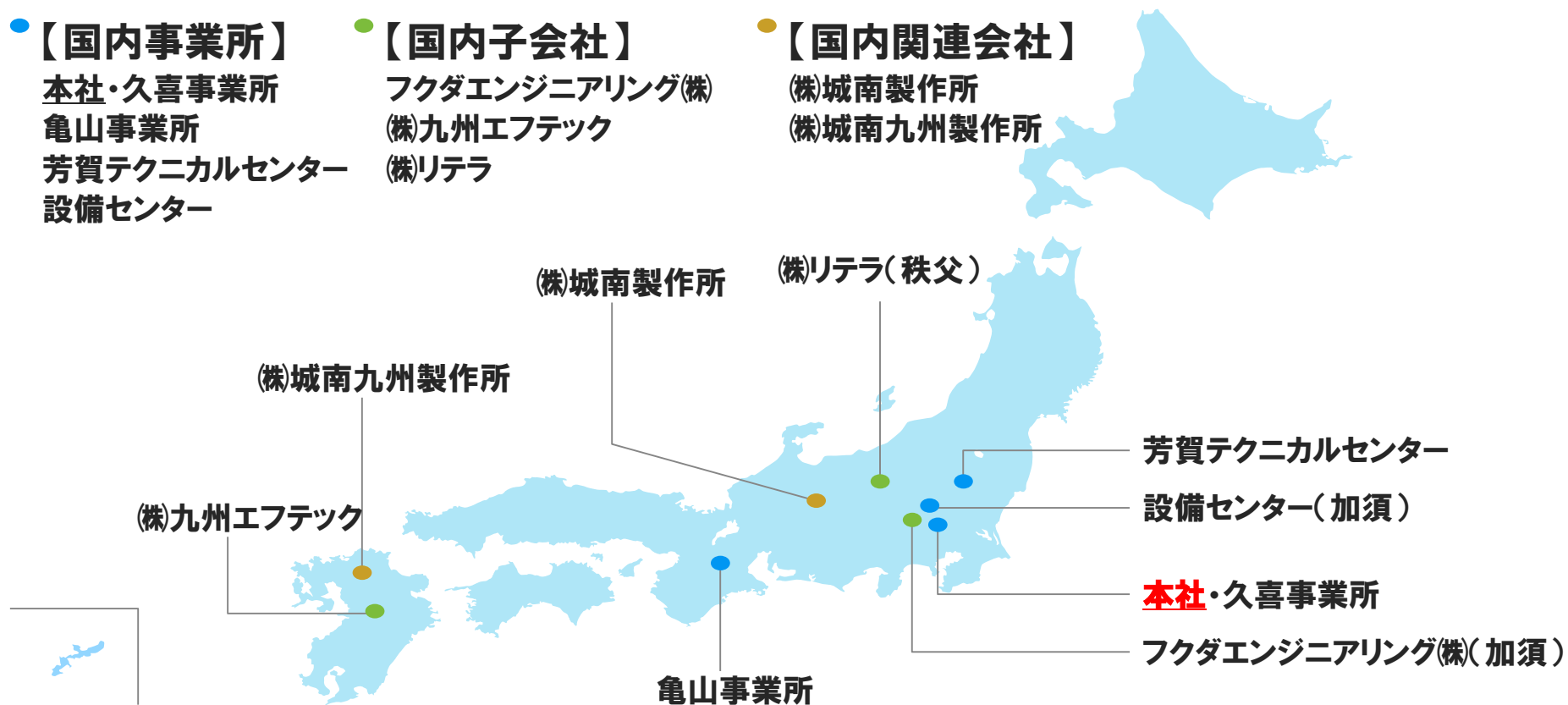
本社・久喜事業所
亀山事業所
芳賀テクニカルセンター
設備センター

●【国内子会社】

フクダエンジニアリング(株)
(株)九州エフテック
(株)リテラ

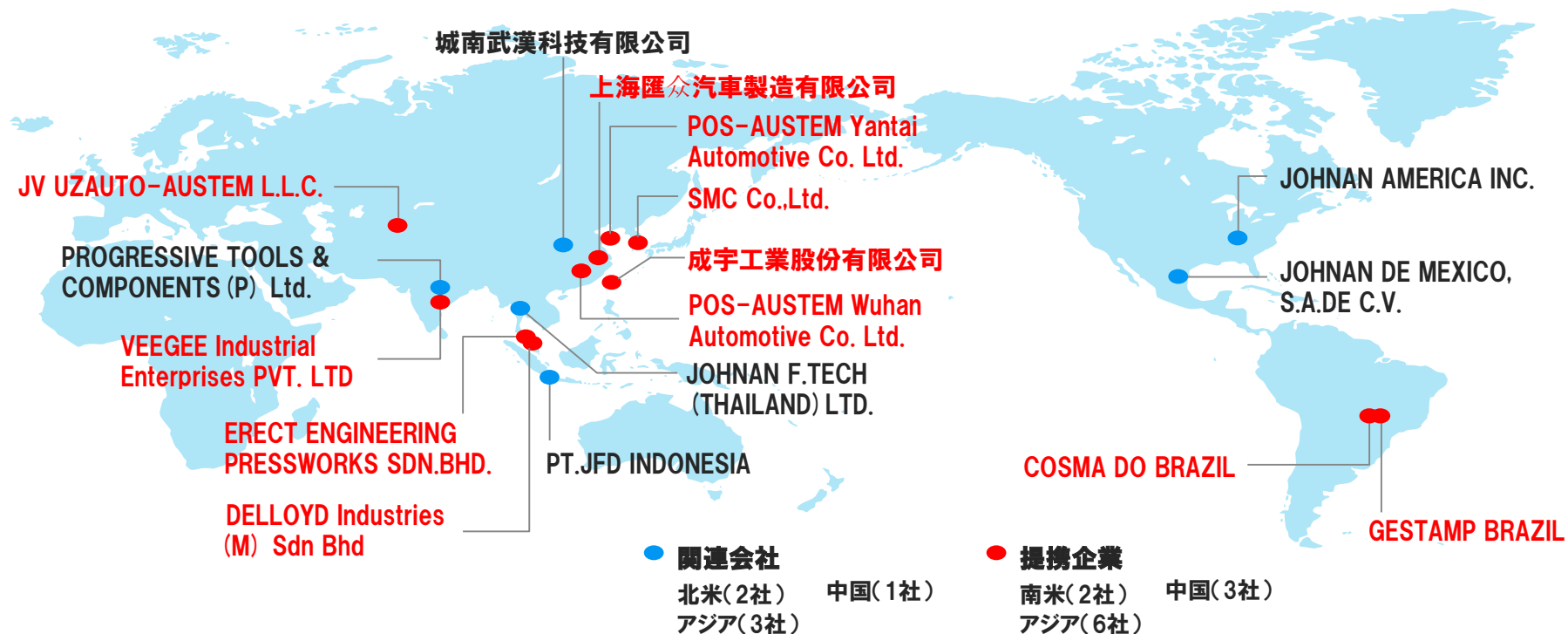
●【国内関連会社】

(株)城南製作所
(株)城南九州製作所





世界8カ国12生産拠点、6研究・技術開発・営業拠点を有しています。



世界6カ国・1地域での提携関係により、当社製品の世界供給体制を構築



会社名称	India Steel Summit Private Limited
所在地	インド ウッタラ Pradesh 州 グレーターノイダ
事業内容	鋼材加工・プレス部品製造・ 金型製造
設立年月日	2006年8月26日
資本金	INR 768,000,000（2022年4月1日時点）
出資比率	株式会社エフテック 90% フクダエンジニアリング株式会社 10%
連結売上高	2,090百万円（2021年3月期 1INR=1.5円換算）
従業員数	379名（2021年4月時点）